

本州日本海地域のサクラマス資源再生に向けた取り組み

-平成18年度FS研究の結果と19年度からの新規プロジェクト研究「河川の適正利用による本州日本海地域サクラマス資源管理技術の開発」について-

おおくま かずまさ
大熊 一正 (さけますセンター さけます研究部)

平成18年度に、組織再編した水産総合研究センター(以下、水研センターと記す。)4機関(中央水研、北水研、日水研、及びさけますセンター)と、山形県内水面水産試験場及び富山県水産試験場を加えた計6機関が参画し、単年度限りのFS(Feasibility Study: 導入調査)研究が採択されました。このFS研究では、本州日本海地域のサクラマス資源再生に向けた取り組みとして、マリンランディング計画後のサクラマス研究、モデル河川(最上川、神通川)における再生産の問題点、および海洋生活期の諸問題のレビューと、マリンランディング計画の総括を行うとともに自然再生産実態の把握とふ化放流の検証を行い、問題点の抽出を行いました。

この結果、サクラマス資源回復の問題点として、自然再生産への高い依存、遊漁による高い減耗、利水や治水のための改修など河川の高度利用による生息・再生産区域の減少、他河川系群の放流による固有系群への遺伝的影響などが特に深刻なものとして抽出されました。そして、これを基に、新たに平成19年度の水研センター運営費交付金プロジェクト研究として「河川の適正利用による本州日本海地域サクラマス資源管理技術の開発」を

提案し、採択されました。

本プロジェクト研究の実施期間は3年間で、平成18年度FS研究に参画した6機関に加え、新たに秋田県水産振興センターも参画しています。プロジェクト名にもあるとおり、本研究はサクラマス河川生活期の問題に的を絞った2つの大きな実施課題からなっております。具体的には、1) 再生産環境の保全・改善・造成技術の開発として、越夏するための淵の保全・改善・造成技術の開発、親魚用簡易魚道の開発、人工産卵場造成技術の開発等、また2) 個体群の適正利用技術の開発として、河川内漁業・遊漁制度の改善指針の策定、潜在的再生産可能支川の抽出と利用指針の策定、ヤマメ種苗放流に伴うスモルト化率の低下を軽減するための技術開発を行います(図1)。

本研究の実施により、18年度FS研究で明らかとなった15の障壁のうち、水産サイドの8つの障壁が取り除かれるものと考えています。また水産サイドと河川管理者の協力でさらに2つの障壁を取り除くことができ、最終的に、地域特性に応じた河川の適正利用による遡上親魚と降海幼魚保全のための指針が策定できるところまでを目指しています。

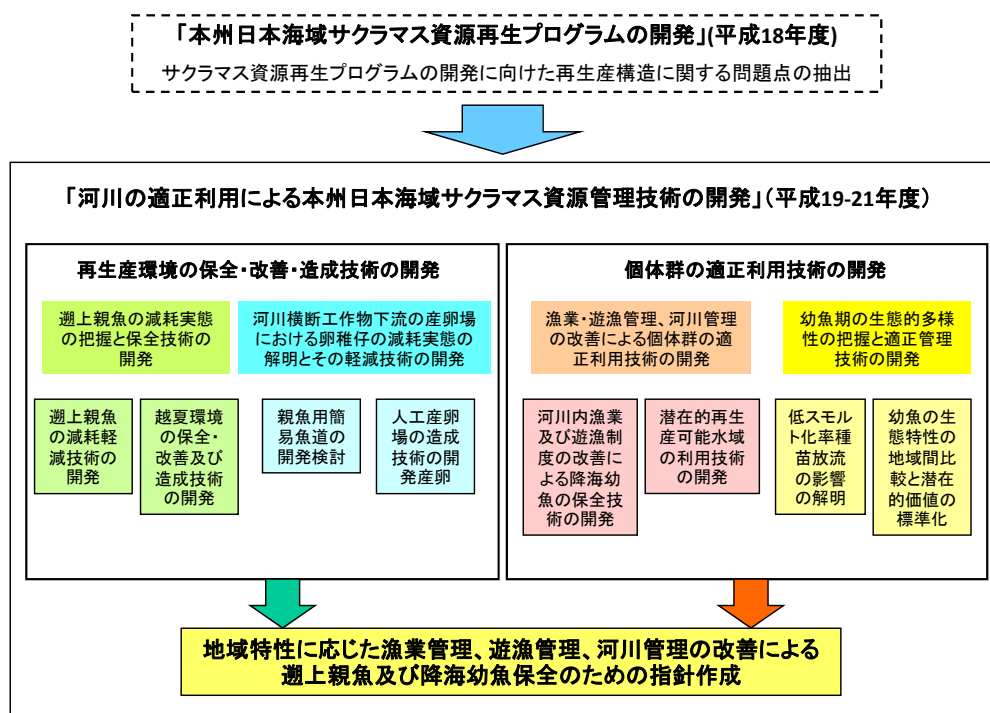


図1. 河川の適正利用による本州日本海地域サクラマス資源管理技術の開発の概要。